

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490300221		
法人名	社会福祉法人 慈童会		
事業所名	グループホーム くすのき園		
所在地	三重県鈴鹿市上箕田町字近田2638番8		
自己評価作成日	平成30年12月15日	評価結果市町提出日	平成31年2月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2018_022_kihon=true&amp;JigvoNoCd=2490300221-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2018_022_kihon=true&amp;JigvoNoCd=2490300221-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 31 年 1 月 16 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同敷地内に、特別養護老人ホームや通所介護事業所、保育園も隣接していて、事業所間で利用者や職員、ボランティア等も自由に行き来ができる。また、グループホームの建物内の多目的ホールを、地域住民の為に開放し、認知症カフェや介護予防教室を開催している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

30年以上の実績のある特別養護老人ホームと同一敷地内にある。地域の期待の下にスタートしたホームであるので地域との連携はできており、開所早々の多目的ホールを使用している認知症カフェや介護予防教室には、20名を超える地域の方々の参加を得ている。この1年は利用者にとって生活環境が大きく変わった1年であったが、一緒に生活をするということを管理者・職員一体となって取り組んだ結果、理念「慈しむ心を育む」とおりのホームの雰囲気になってきている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者が、家庭的な環境と地域住民との交流の中で、その人らしい生活が送れるよう職員に対し、“慈しむ心を育む”という理念を掲げて文書やパンフレットに記載するとともに、研修の機会に周知させている。	法人理念「慈しむ心を育む」をそのままグループホームの理念としている。利用者を慈しむのはもちろん、その家族・地域の人、そして自分自身も含めて慈しむ心を育みながら、互いに成長することを職員に説いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	認知症カフェや介護予防教室に来園する地域の人たちと交流したり、お話ボランティアさんの定期的な訪問を受け交流している。	多目的ホールを利用した認知症カフェや介護予防教室には20名を超える地域の方々の参加がある(利用者やその家族を除いて)。また地域の中学校の運動会に招待されたり、地域のボランティアの来訪も多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	多目的ホールを地域交流スペースで、認知症カフェや介護予防教室を開催、また認知症サポーターの資格を持つ職員により、キャラバンメイトの育成に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	災害時における対応や地域との連携について話し合っている。	4月の設立以降、2ヶ月ごとに開催している。ヒヤリハットを含めた事業所からの現状報告を基に、参加者からもいろいろ質問が出ている。夏の台風時の停電対応に合わせ防災の議論が出たりしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録を持参する際に、事業所の運営状況を報告し、質問に答えている。また、9月28日に実地指導を受けた。	母体の法人として市との連携は出来ているが、グループホームとしては設立後間がないので、会議の議事録や介護計画更新時以外にも機会を作って連携を密にとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関内側の扉は、遠隔操作の自動扉となっていて、利用者がひとりで風除室に出ることは難しいが、介助者が操作することで一緒に出て頂ける。出入口は全て施錠をしていない。	身体拘束については法人全体として取り組んでおり、委員会・指針・勉強会と実施している。居室の窓から外に出られた方があり、検討課題としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修や、会議の場で話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての研修や、会議の場で話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の見学時に、契約についての内容を説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の家族も出席してもらい、家族の意見や運営推進委員の意見を聞いて業務改善に努めている。	開設半年経過で利用者家族アンケートを実施した。苦情は少なく、利用者の小遣いの使途や請求書のあり方等、説明が不十分であったことを改善につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員会議で、業務についての意見や提案を聞き、改善を図っている。	毎月1回、手がすいた夕方頃に開催し、ケア・運営両方につき話し合っている。居室担当を決めたのも職員の意見である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与面では、役務手当・介護職員処遇改善手当の支給、業務に支障が出ない範囲で勤務希望や有休取得を優先させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修の受講を計画的に進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は、今のところ行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、家族が見学に来園した際に、不安に思っていることや望んでいることを傾聴し、信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や、電話でのやり取りの中で、困っていることや、希望されていることを引き出せるようにこちらから尋ねている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新しい環境に慣れて頂くために、これまで過ごしていた生活の様子を家族に訊いている。(靴底にGPSを装着して入居された利用者がいたが、解約した。)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として共に暮らす思い出対応している。生活の知恵を活かして、日常生活の中で教わることが多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に現在の状況を報告し、どのような支援を希望されるかを伺って、思いを共有できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	認知症カフェや介護予防教室の開催時に、近所の方が寄ってくださり、いつでも気軽に話をさせていただける様に努めている。	多目的ホールを使っの認知症カフェには、毎回20人を超える近隣住民の参加者があり、利用者とのよい交流の場になっている。法事や家族と一緒にの旅行もあり、お正月には泊りがけや日帰りて家に帰られる方がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の悪い方も見えるが、トラブルになった時は仲介に入り、共に支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族にも尋ねながら、本人の希望を優先している。	思いや意向は言ってくる方もいれば、言わない方には声掛けして話を聞きだしている。特に風呂は1対1であり昔話が多い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを観るだけでなく、本人や家族の来園時にも、話を聞くように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自身でできる部分は見守りで、無理のないように、現状維持できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の実施内容について、毎週評価を実施することで、改善した方が良い点等を見直すことができる。利用者を居室ごとに担当を決め、責任のある記録を行うことで、より細かい介護計画を立てることができる。	入居当時は3ヶ月間の暫定計画であり、その後本計画に見直しをする。医師の指示や看護師の意見も聞きサービス担当者会議を行い計画書につなげている。介護計画の項目ごとに毎週担当者が評価チェックし、利用者の変化を見逃さない工夫をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報に生活状況・心身状態の記録、バイタルチェック、食事量、水分摂取量、投薬確認、排泄について記録し、体調の変化が分かるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会の少ない利用者が、寂しい想いをしないように、外出支援等を行っている。また、必要に応じて夜間入浴も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや慰問、介護相談員当の訪問で、楽しい時間を過ごしたり、麦カフェに通ったりして、地域住民と交流している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族で受診することが難しい利用者は、看護師又は介護職員が付き添っている。指定協力病院があり、相談・指示を受けられる。月一回、歯科衛生士による口腔ケアの指導を受けている。	利用者全員が協力医がかかりつけ医である。訪問診療はないが、24時間電話は受け付けてくれる。病院送迎は家族が基本だが、職員が付き添う場合が多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週二回、看護師が出勤、投薬のセットや塗布薬の指示を受けている。薬について判らないことがあれば、電話でも相談できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者が腰椎を骨折し動けなくなった時に、隣接の特養の応援を受け、入浴も機械浴槽を使用して連携した。	法人母体に特別擁護老人ホームがあるので、グループホームとしては、それに準ずるとして重度化指針は作成していない。看取りについては今後の課題としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人として事故発生時のマニュアルがある。又、職員は救急救命士による講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設で定期的に防災訓練を実施している。地震時には実際に、防災頭巾をかぶり対応した。	法人内事業所持ち回りで定期的に訓練しており、昨年はグループホームとしても火事想定で避難・消火を主に訓練をした。避難所は母体の特別擁護老人ホームの3階と決めており、地域の福祉避難所にもなっている。備蓄も3日分ある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の個性を尊重し、声かけの仕方、対応の仕方に気をつけている。職員間で入居者の情報を共有している。	利用者は年配者であり、言葉かけには十分気を使っている。また利用者の出身地と同じ地域に住む職員には、個人情報はもちろん公私混同にならないよう注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行う場合は、必ず本人の意見を聞いて、自己決定して頂くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全て希望に沿うというのは難しいが、利用者のペースに合わせた支援ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、お化粧をしている方も見え、一日に何度も着替えをされる方も見え、見守っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	三食、配食で提供されるが、朝夕はもう一品作っている。おやつは、できるだけ入居者と一緒に作るようにしている。	3食共法人母体の厨房で作られているが、朝夕のもう一品はその日の職員が何を作るか判断する。利用者のお手伝いは、できる人が果物を切ったり、食器を洗ったりしている。	現在3食とも法人の厨房で作っているの、グループホームの特性を踏まえて利用者と一緒に作り、一緒に食事を楽しめる環境作りを前向きに検討されることを期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を記録している。好き嫌いがあり、食べられない物があるときは、個別に一品作り提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについて、月一回歯科衛生士より指導を受け、歯垢を取り除く介助を行っている。起床時、食後は声かけにて歯磨き支援を行い、義歯を使用されている方は、就寝前に外し預かって洗浄剤に浸けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼間は全員トイレを使用している。 夜間は本人希望により、ポータブルトイレを使用している(1名)。	一部リハビリパンツの方もいるが、9人全員がトイレでの排泄で自立しており、声掛けは夜間のみである。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の声かけや、体操等で積極的に身体を動かしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴が基本であるが、本人の希望や皮膚の状態により、毎日、或いは夜間の入浴を支援している。	週3回午前入浴が基本であるが、夜間希望の方が2~3名おり対応している。一番風呂が好きの方や服を脱ぐのがいやな方もいるが、お湯に入ったら職員との思いっきりの会話を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の寝たいときに、横になって頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に変更があった時は、様子観察を行うとともに記録に残し、看護師の指示を受けながら支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	作品づくりや、家事(掃除・洗剤・洗濯物たみ等)のお手伝いをしている。コーヒータイムが楽しい時間となるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	職員が多い時は、外出するように努めている。季節に合った場所への散歩や、週に3日NPOが運営している喫茶への外出支援を行っている。	この季節は寒くてあまり行けないが、天気のよい日は、事業所周辺の自然いっぱい田んぼ道の散歩をしている。桜・チューリップ・花しょうぶ・コスモスと、ほとんど毎月どこかに花を見に行ったりと外出は多い。	利用者の希望を踏まえ、季節の花見だけでなく地域の祭りや事業所内の行事等、年間行事表を作り、利用者みんなが楽しめる外出支援をされることを期待する。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に、自身でお小遣いを持ち、コーヒーを飲んだり、好きな商品を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の声が聞きたいので電話をして欲しいと言われるときは、電話を掛ける支援を行っている。手紙の支援はしていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や、廊下、居室内に季節感のある作品を展示したり飾りつけをしている。 中庭に物干しがあり、洗濯物を干したり取り込んだりする手伝いをして頂いている。	食堂兼居間は広く、大きな窓に天窗もあり明るい。食事をするテーブルと大きなソファがゆったりと置いてあり、畳コーナーにつながっている。壁には行事の写真が飾られているが、全体的には幼稚園的な飾りつけもなくスッキリした大人の雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにあるソファに座ってよくおしゃべりしたり、園庭のベンチに独り過ごされたりしている。園庭作業や野菜作りでは、利用者から職員が教えて頂くことがあった。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族に任せているが、居室に物が多くなり過ぎて、シルバーカーが動かしにくくなったため、お願いして持ち帰って頂いたこともあった。	大きなクローゼットがあるので衣類などはその中にしまっている。部屋の中はテーブルや椅子・棚があり、テレビや写真・絵、手づくりの作品が飾ってあり、自分の部屋作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室が判らない方には目印のリボンを前に張ったり、家族の了解を得て、名前を書いた紙を貼っている。		